

# 人事行政運営状況報告書

## 1 職員の任用の状況

### (1) 職員数の状況と主な増減理由（各年度4月1日現在）

部 門	区 分	職員数		対 前 年 増 減 数	主 な 増 減 理 由
		平成 26 年度	平成 27 年度		
一般行政部門	事 務 局	4 人	4 人	0 人	
	小 計	4 人	4 人	0 人	
特別行政部門	消 防	327 人	332 人〔8〕	5 人	平成 26 年度退職者 15 名に対し、平成 27 年度採用者が 20 名（うち再任用 6 名）であるため。
	小 計	327 人	332 人〔8〕	5 人	
合 計		331 人 【340 人】	336 人〔8〕 【340 人】	5 人	

(注) 職員数は一般職に属する職員数で、地方公務員の身分を保有する休職者、派遣職員などを含み、臨時又は非常勤職員を除いています。

【 】内は定数です。

〔 〕内は再任用短時間勤務職員です。（定数外職員ですが職員数に含まれます。）

### (2) 年齢別職員数の状況（平成 27 年度）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	平均
一般行政職	0 人	0 人	0 人	1 人	3 人	0 人	51.7 歳
消 防 職	9 人	98 人	59 人	70 人	88 人	8 人	39.8 歳
合 計 (構成比)	9 人 (2.7%)	98 人 (29.2%)	59 人 (17.6%)	71 人 (21.1%)	91 人 (27.0%)	8 人 (2.4%)	39.9 歳

### (3) 採用の状況（平成 27 年度）

#### ア 採用の状況

職 種	区 分	試験採用	選考採用	再任用		計
				常勤	短時間	
一般行政職		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
消 防 職		14 人	0 人	0 人	6 人	20 人
合 計 (構成比)		14 人 (70.0%)	0 人 ( )	0 人 ( )	6 人 (30.0%)	20 人 (100%)

イ 競争試験の実施状況

(7) 実施日

	1次試験日	2次試験日	最終合格発表日
定例	平成27年8月1日	平成27年9月5日・6日	平成27年9月25日
再募集	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日

(イ) 競争試験の実施状況

	採用予定数	申込者数	受験者数	受験率	第1次合格者数	最終合格者数 (採用)	競争倍率
一般行政職	0人 0人	0人 0人	0人 0人	0%	0人	0人	0倍
消防職	11人程度 0人	93人 0人	86人 0人	92.5%	27人	11人	7.8倍
合計	11人程度 0人	93人 0人	86人 0人	92.5% 0%	27人 0人	11人 0人	7.8倍 0倍

(注) 上段は定例試験、下段は再募集試験です。

(4) 退職等の状況 (平成27年度)

区分 職種	定年	勸奨	普通	その他	合計
一般行政職	0人	0人	0人	0人	0人
消防職	11人	0人	1人	5人	17人
合計 (構成比)	11人 (64.7%)	0人 (0%)	1人 (5.9%)	5人 (29.4%)	17人 (100%)

(注) 「その他」には、死亡、任期満了が含まれます。

(5) 昇任の状況 (平成27年度)

区分 職種	昇任				
	係長級	課長補佐級	課長級	次長級	部長級
一般行政職	0人	0人	0人	0人	0人
消防職	10人	10人	4人	1人	1人
合計 (構成比)	10人 (38.5%)	10人 (38.5%)	4人 (15.4%)	1人 (3.8%)	1人 (3.8%)

## 2 職員の給与の状況

### (1) 人件費の状況（普通会計決算）

区 分	住民基本台帳人口 (年度末)	歳出額 A	実質収支	人件費 B	人件費率 (B/A)	(参考) 昨年度の人件費率
		千円	千円	千円	%	%
27年度	306,767人	3,556,845	65,405	2,747,377	77.24	76.10

(注) 甲府地区広域行政事務組合における普通会計は、一般会計・消防事業特別会計を含んだものです。

### (2) 職員給与費の状況（普通会計予算）

区 分	職員数 A	給 与 費				一人当たり給与費 (B/A)
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
		千円	千円	千円	千円	千円
28年度	337人	1,219,405	550,027	477,391	2,246,823	6,667

(注) 職員手当には退職手当を含みません。

### (3) 職員の平均給料月額、平均給与月額及び平均年齢の状況（平成27年4月1日現在）

一般行政職			消 防 職		
平均給料月額	平均給与月額	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均年齢
円	円	歳	円	円	歳
397,975	473,373	51.7	302,700	390,000	39.8

### (4) 職員の初任給の状況（平成27年4月1日現在）

区 分		決定初任給	採用2年経過給料額
一般行政職	大学卒以上	174,200円	187,700円
	短大卒以上	151,800円	163,600円
	高校卒以上	142,100円	151,800円
消 防 職	大学卒以上	187,700円	198,700円
	短大卒以上	174,200円	187,700円
	高校卒以上	157,700円	174,200円

### (5) 職員の経験年数別平均給料月額の状況（平成27年4月1日現在）

区 分	経験年数 10～14年	経験年数 15～19年	経験年数 20～24年	経験年数 25～29年
一般行政職			329,200円	
消 防 職	275,900円	316,800円	344,100円	381,000円

(6) 級別職員数の状況（平成 27 年 4 月 1 日現在）

ア 一般行政職

区 分	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	7 級	8 級	計
職務区分	主事 技師	主任 副主任	主任	係長 主査 副主査	課長補佐 主任主査	事務局 次長	事務局 次長	事務局長	
職 員 数	人	人	人	人 1	人 1	人 1	人	人 1	人 4
構 成 比	%	%	%	% 25	% 25	% 25	%	% 25	% 100
参考 1 年前の 構成比	%	%	%	% 50	%	%	% 25	% 25	% 100

イ 消防職

区 分	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	7 級	8 級	計
職務区分	消防士 消防副士長	消防士長	消防司令補 副主査	消防司令補 副主査	消防司令 主任主査	消防司令長	消防監	消防正監	
職 員 数	人 97	人 43	人 24 [5]	人 71 [3]	人 82	人 7	人 7	人 1	人 332 [8]
構 成 比	% 29.2	% 13.0	% 7.2	% 21.4	% 24.7	% 2.1	% 2.1	% 0.3	% 100
参考 1 年前の 構成比	% 28.8	% 10.7	% 9.2	% 22.3	% 24.8	% 2.1	% 1.8	% 0.3	% 100

- (注) 1 甲府地区広域行政事務組合の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数です。  
2 職務区分とは、それぞれの級に該当する代表的な職位です。

(7) 職員手当の状況

ア 期末勤勉手当、退職手当の状況（平成 27 年度支給割合）

区分		期末	勤勉
期末勤勉 手当	6 月期	1. 225 月分 (0. 65)月分	0. 75 月分 (0. 35)月分
	12 月期	1. 375 月分 (0. 80)月分	0. 75 月分 (0. 35)月分
	計	2. 60 月分 (1. 45)月分	1. 5 月分 (0. 70)月分
職制上の段階、職務の級等による加算措置 有			
退職手当	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
	勤続 20 年	20. 445 月分	25. 55625 月分
	勤続 25 年	29. 145 月分	34. 5825 月分
	勤続 35 年	41. 325 月分	49. 59 月分
	最 高 限 度 額	49. 59 月分	49. 59 月分
	そ の 他 の 加 算	定年前早期退職特例措置（2～20%加算）	
	退 職 時 特 別 昇 給	なし	
	1 人 当 た り 平 均 支 給 額	383 千円	21, 572 千円

(注) 退職手当の 1 人当たり平均支給額は、前年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額です。

(注) 期末勤勉手当の括弧内の月数（月分）は再任用職員の支給月数です。

イ その他の手当

特殊勤務 手当 (27 年度)	区分		全職種
		職員全体に占める手当支給職員の割合	
	支給職員 1 人当たり平均支給年額		41, 947 円
	代表的な特殊勤務手当支給対象職員		火災や救急などの災害に出動した職員
時間外 勤務手当	27 年度	支給総額	61, 078, 658 円
		職員 1 人当たり支給年額	192, 677 円
	26 年度	支給総額	72, 663, 685 円
		職員 1 人当たり支給年額	231, 413 円

	内容	国の制度との異同	国の制度との異同
扶養手当	<p>扶養親族として配偶者、子等を有する職員に支給</p> <p>① 配偶者 月額 13,000 円</p> <p>② 配偶者以外の扶養親族 月額 6,500 円 (配偶者がいない場合は1人目月額 11,000 円)</p> <p>満 16 歳年度初めから満 22 歳年度末までの間にある子 1 人につき 5,000 円加算</p>	同じ	
住居手当	<p>借家等に居住する職員に支給</p> <p>家賃の額に応じて最高 27,000 円まで</p>	同じ	
通勤手当	<p>通勤距離が片道 2km 以上の職員に支給</p> <p>① 交通機関利用者 6 ヶ月定期券等の額を一括支給 (ただし、月額換算 55,000 円を限度)</p> <p>② 交通用具使用者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四輪車使用者 通勤距離 2 km～20 km のとき 距離に応じて 3,000 円～13,200 円を支給。 20 km を超えるときは 1km につき 660 円を加算</li> <li>・二輪車等使用者 通勤距離に応じて 2,000 円～31,600 円を支給</li> </ul> <p>③ ①及び②の併用者 ①及び②によりそれぞれ算出した額の合計額</p>	<p>①同じ</p> <p>②異なる</p> <p>③同じ</p>	<p>② 四輪車使用者と二輪車等使用者の区分なし</p>

### 3 職員の勤務時間その他の勤務条件の状況

#### (1) 勤務時間の状況（平成 27 年 4 月 1 日現在）

	1 週間の勤務時間	開始時刻	終了時刻	休憩時間
一般行政	38時間45分	午前8時30分	午後5時15分	午後0時00分～午後1時00分
消防職 (毎日勤務)				
消防職 (隔日勤務)	38時間45分	午前8時30分	翌日 午前8時30分	午後0時00分～午後1時00分 午後5時15分～午後6時30分 午後10時00分～午前6時00分 (うち6時間が仮眠時間) 午前6時00分～午前6時15分

#### (2) 一般職員の年次有給休暇の使用状況（各年 1 月 1 日～12 月 31 日）

	平成 27 年 平均使用日数	平成 26 年 平均使用日数
一般行政	12.6 日	3.6 日
消防職 (毎日勤務)	7.4 日	8.2 日
消防職 (隔日勤務)	5.3 日	5.3 日

#### (3) 特別休暇等の状況（平成 27 年 4 月 1 日現在）

種類	具体的な内容	付与日数	
1 骨髄等提供休暇	骨髄移植のための骨髄若しくは末梢血幹細胞移植のための末梢血幹細胞の提供希望者としてその登録を実施する者に対して登録の申出を行い、又は配偶者、父母、子及び兄弟姉妹以外の者に、骨髄移植のため骨髄若しくは末梢血幹細胞移植のため末梢血幹細胞を提供する場合で、当該申出又は提供に伴い必要な検査、入院等する場合	必要な期間	
特別休暇	2 結婚休暇	結婚する場合	5 日以内
	3 配偶者出産休暇	配偶者が出産した場合	2 日以内
	4 感染症まん延防止休暇	感染症のまん延を防止する場合	必要な期間
	5 天災事変による休暇	天災事変により職員の現住居が滅失、損壊した場合、又は、非常災害により交通が遮断された場合、職員の責によらない交通機関の事故等の不可抗力によって出勤が著しく困難な場合	必要な期間
6 ボランティア休暇	自発的に、かつ、報酬を得ないで社会に貢献する活動(専ら親族に対する支援となる活動を除く。)を行う場合	5 日以内	
7 選挙権等行使休暇	正規の勤務時間中に選挙権を行使する場合、または、裁判員、証人、鑑定人、参考人等として国会、裁判所、地方公共団体の議会及びその他の官公署へ出頭する場合	必要な期間	
8 育児休暇	生後満 1 年に達しない子を育てる場合	1 日に 2 回 各 1 時間以内	
9 生理休暇	生理日の勤務が著しく困難な場合	必要な期間	
10 妊娠中又は出産後の職員の通院休暇	妊娠中又は出産後 1 年以内で通院をする場合		

	(1) 妊娠6月まで (2) 妊娠7月から9月まで (3) 妊娠10月から出産の月まで (4) 出産後1年間	4週間に1回 2週間に1回 1週間に1回 その間に3回
11 産前及び産後の休暇	出産予定日前8週間（多胎妊娠の場合は14週間）に当る日から出産の日後8週間目に当る日までの期間	
12 男性職員の育児参加休暇	配偶者の産前産後期間において、小学校入学前の子供が既にいる場合は産前から、いない場合は産後に、男性職員が取得	5日以内
13 子の看護休暇	養育する中学校就学の始期に達するまでの子を看護する場合	5日（子が2人以上の場合は10日）以内
14 忌引	親族の喪に遇った場合 (1) 父母 血族 7日、姻族 3日 (2) 配偶者 10日、 (3) 祖父母 3日、 1日 (4) 子 5日、 1日 (5) 孫 1日、 (6) 兄弟、姉妹 3日、 1日 (7) 伯叔父母 1日、 1日	
15 父母の祭日休暇	死亡した父母（配偶者の父母を除く）について神事又は仏事による回忌の法要等を営む場合	1日
16 夏季休暇	夏季における心身の健康の維持及び増進又は家庭生活の充実のため	
17 短期の介護休暇	要介護者の介護又は世話をを行う場合	5日（2人以上の場合は10日）以内
18 介護休暇	配偶者、父母、子、配偶者の父母等で負傷、疾病又は老齢により日常生活を営むのに支障があるものの介護をする場合	
19 無給休暇	私費をもって学校、研究所等の機関において、または外国に留学し、学習、調査、研究等を行う場合	

(4) 育児休業及び部分休業の取得状況（平成27年度）

	育児休業 取得者数	部分休業 取得者数	育児 短時間勤務 取得者数	平成27年度中に新たに育児休業が取得可能となった 職員			
				(育児休業 対象者数)	うち育児休業 取得者数	うち部分休業 取得者数	うち育児 短時間勤務 取得者数
男性職員	0人	0人	0人	15人	0人	0人	0人
	0人	0人	0人				
女性職員	1人	0人	0人	1人	1人	0人	0人
	0人	0人	0人				
計	1人	0人	0人	16人	1人	0人	0人
	0人	0人	0人				

(注) 「育児休業取得者数」、「部分休業取得者数」、「育児短時間勤務取得者数」の欄の上段は平成27年度に新たに育児休業（部分休業又は育児短時間勤務）を取得した者、下段には育児休業（部分休業又は育児短時間勤務）の期間が平成26年度から27年度にかけて引き続いてる者の数です。



(5) 介護休暇の取得状況（平成 27 年度）

	介護休暇取得者数
男性職員	0 人
女性職員	0 人
計	0 人

#### 4 職員の分限及び懲戒の状況

##### (1) 処分事由別分限処分者数（平成 27 年度）

区 分	降任	免職	休職	降給	合計
勤務実績が良くない場合 (法第 28 条第 1 項第 1 号)	0 人	0 人	0 人		0 人
心身の故障の場合 (法第 28 条第 1 項第 2 号、第 2 項第 1 号)	0 人	0 人	7 人		7 人
職に必要な適格性を欠く場合 (法第 28 条第 1 項第 3 号)	0 人	0 人	0 人		0 人
職制等の改廃等により過員等を生じた場合 (法第 28 条第 1 項第 4 号)	0 人	0 人	0 人		0 人
刑事事件に関し起訴された場合 (法第 28 条第 2 項第 2 号)	0 人	0 人	0 人		0 人
条例に定める事由による場合 (法第 27 条第 2 項)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
合計	0 人	0 人	7 人	0 人	7 人

- (注) 1 対象職員は、一般職に属するすべての職員です。  
 2 分限処分者数は、平成 27 年度中に休職期間が更新された者を新たに休職処分に付された者とみなしています。  
 3 法とは、地方公務員法をいいます。

##### (2) 処分事由別懲戒処分者数（平成 27 年度）

区 分	戒告	減給	停職	免職	合計	訓告等
法令違反 (法第 29 条第 1 項第 1 号)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	8 人
職務上の義務違反又は怠慢 (法第 29 条第 1 項第 2 号)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
全体の奉仕者たるにふさわしくない非行 (法第 29 条第 1 項第 3 号)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	10 人
合 計	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	19 人

- (注) 地方公務員法以外の処分として訓告等の処分があります。

##### (3) その他（平成 27 年度）

法第 28 条第 4 項により失職した者	0 人
----------------------	-----

## 5 職員のサービスの状況

### (1) サービス規律の遵守に関する取り組み

取り組み内容	職員への周知方法
厳正なサービス規律の確保、親切・公平な職務執行、飲酒運転の撲滅等交通法規の遵守、事務の効率化、地域住民の生命・身体及び財産の火災からの保護、水火災又は地震等の災害による被害の軽減、安寧秩序の維持、社会公共の福祉増進	通達及び伝達

### (2) 営利企業等の従事許可の状況

平成 26 年度	平成 27 年度
3 件	21 件

## 6 職員の研修及び勤務成績の評定の状況

### (1) 人材育成の目的

消防行政を取り巻く社会環境は著しく変化しており、高度情報通信技術に代表される急速な技術革新、地方分権、行財政改革や規制緩和の推進、住民ニーズの多様化等を背景に、消防行政に対しても新たな対応が求められています。

こうした目まぐるしく変容する時代の中で、職員の育成を効力のあるものとしていくためには、職員が自らの能力を開発、向上させ、これを十分に生かすための体系的な取り組みが必要となります。

職員の育成というと従来は派遣研修を中心としたものでありましたが、職場全体を学習の場として捉えた OJT の環境づくりは極めて重要なことであり、人材は優れた指導者に引きいられた活気ある職場の中で育てられることが大切です。

ことに、職員の個性を尊重し、その多様性を認める職場の雰囲気は職員の能力を開発し、自ら考え行動する職員を育むこととなります。また組織・制度による支援や学習機会の提供と管理職員の自らの職務への取り組む姿勢が相まって、効率的かつ効果的な消防行政の運営が図られるものと考えます。

以上のことを踏まえ、消防業務を警防、予防、総務の3つに分類することにより、それぞれの業務に計画的に配置し、職員の希望と適性・能力の実証に基づき、消防職員として全般的な知識と教養を身につけると共に、研修の充実と合わせ職務能力の向上を図ることを目的とするものであります。

### (2) 基本目標

「多様な能力を持った能動的な消防職員による消防行政の展開」

### (3) 職員像

#### ○ 規律を保持する職員

消防は、規律に始まり規律に終わるといわれています。

公務員は全体の奉仕者であり、著しく信用を失墜するようなことは絶対に許されません。地域住民に信頼される消防職員の第一条件は、規律の保持にあり、日頃の勤務において常に留意しなければなりません。

#### ○ 「和」の心を持つ職員

消防は特異な業務であり、常に有事に対する心構えを失ってはならず、それは組織の中の一員として、それぞれの責任につながります。一人でも個人プレーを行う者がいれば組織の統制はとれません。「和」をもって仕事をすることが、地域住民の負託に応えることにつながるものと考えます。

#### ○ 平等・誠実な視点を持つ職員

公務員は、住民の立場で仕事をしなければなりません。常に住民が消防に何を求めているのかを洞察することに心がけ、目まぐるしく変容する時代の中にあることを各職員が認識し、自らが改革する意識を持って努力と研鑽する気持ちを保持しなければなりません。

### (4) 研修実績（平成 27 年度）

【研修実績については別添のとおり】

(5) 勤務成績の評定の状況について

各職員の昇給・昇任時期に勤務成績の評定をしています。また、職員の能力開発・自己実現の促進と組織の活性化等を図るため、業績・能力主義に基づく新たな人事評価制度を平成18年度から導入し試行及び本格試行後、平成21年度からは全職員を対象として実施しています。

7 職員の福祉及び利益の保護の状況

(1) 職員の厚生福利に関する計画

職員の健康管理に関する取組状況

事業名	概要
産業医健康面談	産業医による健康面談(通年・随時)
人間ドック受診への助成	壮年者の人間ドック受診に対する助成(35・45・50・55・60歳の職員の受診に係る自己負担金及びオプション検査料の一部を助成。)

(2) 職員の厚生福利の実施状況

ア 職員の健康診断の実施状況

項目	検診時期	対象者
定期健康診断	4月～5月	全職員
第二次健康診断	6月～8月	要再・精密検査者
隔日勤務者定期健康診断	10月	隔日勤務の全職員
胃検診	1月～3月	40歳以上の職員
壮年者特別検診	9月～3月	35・45・50・55・60歳の職員
B型肝炎抗原・抗体検査及びワクチン接種	6月～3月	隔日勤務者

イ 職員のレクリエーションの実施状況

事業名	対象者	実施場所
甲府大好きまつりへの参加	職員	甲府市

8 公平委員会の業務の状況に関すること (平成 27 年度)

(1) 勤務条件に関する措置の要求の状況

なし

(2) 不利益処分に関する不服申立ての状況

なし